

SciREX事業の全体像

2025.11.21

下田 隆二

政策研究大学院大学
科学技術イノベーション政策研究センター
(SciREXセンター)

1

1-1.SciREX事業とは

- 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業
 - Science for RE-designing Science Technology and Innovation Policy
 - 経済・社会等の状況を多面的な視点から把握・分析した上で、課題対応に向けた有効な政策の立案を行う「エビデンス・ベースド・ポリシー」の実現を目指して、2011年度からスタートした文部科学省の事業
 - 5年間を一期として、合計3期、15年にわたる長期の事業
- 現在、次の3つのプログラムから構成
 - ①基盤的研究・人材育成拠点
 - 実施主体：各拠点大学及び政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策研究センター（SciREX センター）
 - ②公募型研究開発
 - 実施主体：科学技術振興機構社会技術研究開発センター（JST-RISTEX）
 - ③データ・情報基盤
 - 実施主体：科学技術・学術政策研究所（NISTEP）
 - 第1期にはこれに加えて、政策課題対応型調査研究を実施
 - このほか、JST-CRDS が内外の動向調査を行うことなどにより、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の俯瞰の取組、文科省が行う調査分析の委託等あり
- 事業全体を文部科学省が統括

2

1-2.SciREX事業の全体像

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の推進（SciREX事業）

令和7年度予算額
(前年度予算額) 4.5億円
4.5億円



背景・経緯

経済・社会の変化に適応しながら社会的な問題を解決していくために科学技術・イノベーションへの期待は高まっており、エビデンス（客観的根拠）に基づいた合理的なプロセスによる政策形成が強く求められていることから、平成23年度より当事業を開始した。（2025年度終了事業）

【第6期科学技術・イノベーション基本計画における記載】

- 関係府庁の政策課題を踏まえ、人文・社会科学分野の研究者と行政官が政策研究・分析を協働して行う取組を2021年度から更に強化する。
- 科学技術・イノベーション行政において、客観的な証拠に基づく政策立案を行うE B P Mを徹底し、2023年度までに全ての関係府庁においてエビデンスに基づく政策立案等を行う。

【統合イノベーション戦略2024における記載】

- 人文・社会科学分野の研究者と行政官が協働するプログラムを2024年度も継続。
- SciREX事業（共進化実現プログラム）内の「我が国の人文・社会科学の国際的な研究成果に関するモニタリング指標の調査分析」において、国際ジャーナル論文に関する指標の定量的把握や計量手法、分析手法等の検討、調査・分析を推進。

目的・目標

- エビデンスに基づく科学技術・イノベーション政策の推進に寄与することを目的・目標とする。
- 科学技術・イノベーション政策に係る実務や研究等に携わる人材の育成
- 科学技術・イノベーション政策の形成に資する研究の推進
- 研究コミュニティの形成・拡大 など

A. 基盤的研究・人材育成拠点の形成（補助金）

416百万円（416百万円）

科学技術・イノベーション政策に係る実務や研究等に携わる人材の育成、STI政策の形成に資する研究の推進、コミュニティの形成・拡大等に資する活動を行う大学へ補助金を交付。

採択拠点（5拠点6大学）

【総合拠点】政策研究大学院大学

【領域開拓拠点】東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学※、九州大学

※大阪大学と京都大学は連携してプログラムを実施

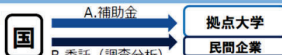
【主な取組】

- エビデンスに基づく科学技術・イノベーション政策の推進を目的とした研究及び人材育成を推進するため、大学院レベルの教育プログラムを中心とした、世界でもトップレベルの水準を誇る教育拠点の構築を支援。
- 行政官と研究者が課題設定の段階から協働して政策への活用までを目指す、人文・社会科学分野を中心とした研究プログラム（共進化実現プログラム）を実施。令和5年10月から第3フェーズを開始。
- サマースキャンやシンポジウムなどの開催を通して拠点間の連携を強化し、研究及び人材育成に関する知見の共有を促進するとともに、科学技術・イノベーション政策に係る政策科学分野の学術コミュニティを形成・拡大。
- 個々の取組によって得られた研究成果を糾合し、政策形成への具体的な利活用を促進する中核的拠点機能を充実。知見を取りまとめた教材の整備・利活用や、事業全体の活動の広報を継続的に推進。

【これまでの成果】

- 人材育成・教材開発（日・英）
 - ✓ 令和6年3月までの修了者数：588名
 - ✓ うち約19%が官公庁・地方公共団体・独立法へ就職。
 - ✓ 「コアコンテンツ」としてSTI政策に係る行政官向けの論文を編集。日本語版は完成して公開済み。
- 政策形成の実務への貢献
 - ✓ 審議会、国際会議や学会等で成果を活用・発表。
 - ✓ プログラム設計法、評価マニュアル、総合知による社会的価値の創出法、政策形成の方法論など、政策形成の一般化手法を開発・提示。

【資金の流れ】



B. 事業の推進体制整備・調査分析（委託等）

33百万円（33百万円）

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業全体を適切かつ効果的に実施するため、事業を推進する体制の整備や、その体制に関連する調査分析を実施。

【NISTEP】データ・情報基盤の構築

※NISTEP予算の内訳

エビデンスに基づく科学技術・イノベーション政策の推進、及びSciREX事業を中心とした調査分析や研究の基礎となるデータ・情報を体系的に活用する基盤の構築。共進化実現プログラムへの参画。

【RISTEX】公募型研究開発プログラム

※JST運営費交付金内訳

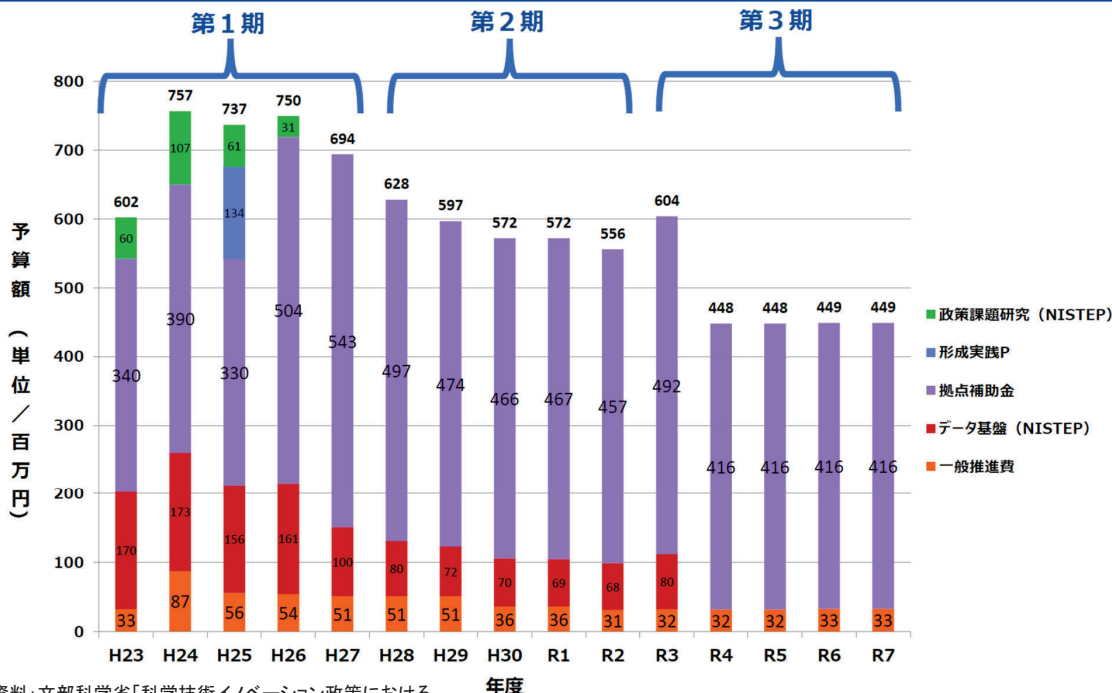
政策課題の解決に貢献し得るような成果創出を目指した指標の開発等を公募型研究開発プロジェクトによって推進。

(担当：科学技術・学術政策局研究開発戦略課
政策科学推進室)

資料：文部科学省「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」事後評価委員会（第1回-R7.10.22）、資料3より

1-3.SciREX事業の予算の推移

「政策のための科学」関連事業費（本省及びNISTEP） 予算推移



資料：文部科学省「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」事後評価委員会（第1回-R7.10.22）、資料3より

※最大15年間の事業として実施
※R4年度からはデータ基盤整備費をNISTEP予算に移し替え

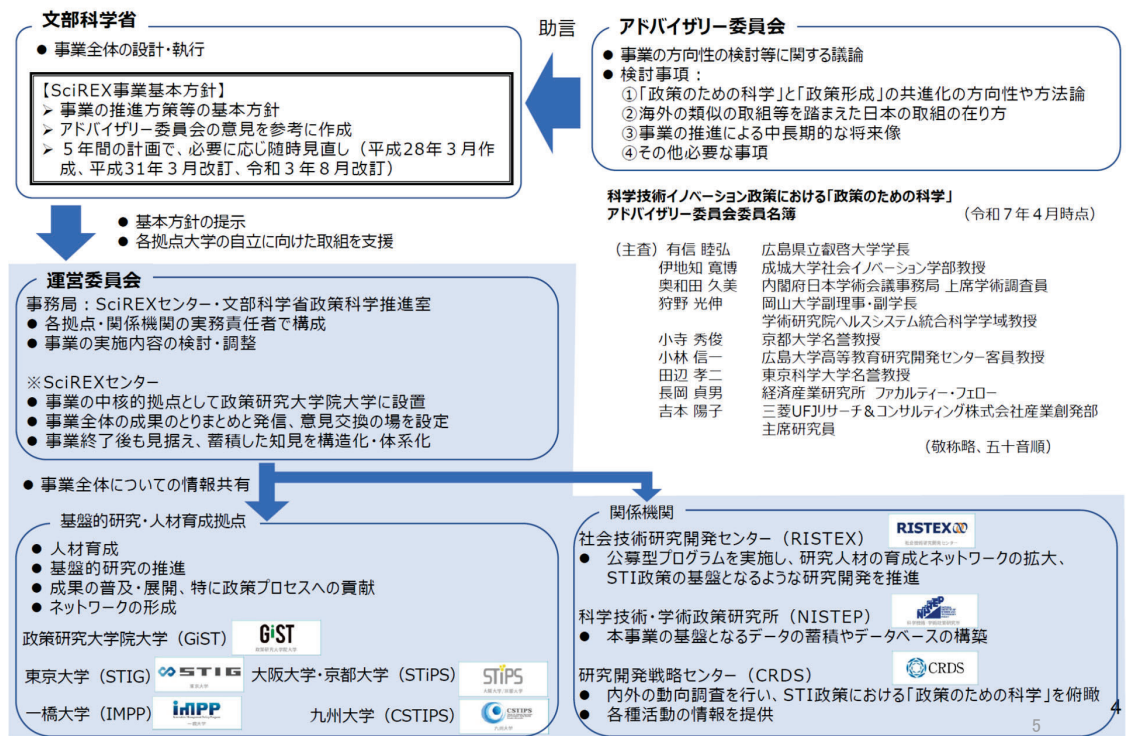
(引用者注)公募型研究開発プログラムはJSTの運営費交付金内数で図には含まれていない

SciREX事業のガバナンス構造について

1-4.SciREX事業のガバナンス構造

・SciREX事業の第1期においては、文部科学省におかれた「科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会」が基本的な方針を定め事業を主導
・第一期中間評価(2015年8月)後の見直しにより現在の構造に移行

資料:文部科学省「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」事後評価委員会(第1回-R7.10.22)、資料3より



1-5.SciREX事業の目的・目標

SciREX
サイレックス事業

- ・ 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業基本方針（令和3年8月30日・科学技術・学術政策局長決定）での規定ぶり
 - 科学としての「科学技術イノベーション政策のための科学」の深化と、客観的根拠に基づく政策形成の実現に向けた「政策形成プロセス」の進化を車の両輪として推進し、共進化を図る
 - 特に、「政策形成プロセス」の進化のためには、研究者と行政官が一体となって主体的に政策形成に取り組む文化の醸成が必要であり、特に行政官をはじめとする政策担当者の意識の改革が不可欠
 - この目的を達成するため、本事業は、第6期基本計画に定める科学技術・イノベーション政策の実効性の確保及び次期基本計画の検討に具体的に貢献することを基本的な目標とし、以下の4点を具体的な目標とする。
 - ① 科学技術・イノベーション政策における「政策のための科学」に関わる研究者や行政官をはじめとする現実の政策形成ができる人材及びこれらをつなぐことのできる人材の創出と、これらの人材の活躍【人材育成】
 - ② 「科学技術イノベーション政策のための科学」という新たな学際的領域の発展・深化と、それを支えるデータや研究成果、知見の蓄積【研究・基盤】
 - ③ 行政官をはじめとする政策担当者と研究者が一体となって研究や政策形成を実施【共進化】
 - ④ 研究者、行政官をはじめとする政策担当者、これらをつなぐ者による持続的なネットワークの構築とコミュニティの拡大【ネットワークング】

2-1.事業の概要：SciREX基盤的研究・人材育成拠点

・人材育成

- ・ 科学技術・イノベーション政策に係る実務や研究等に携わる人材の育成、STI政策の形成に資する研究の推進、コミュニティの形成・拡大等に資する活動を行う大学へ補助金を交付
- ・ 採択拠点(5拠点6大学)
 - ・ 【総合拠点】政策研究大学院大学
 - ・ 【領域開拓拠点】東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学※、九州大学
 - ・ ※大阪大学と京都大学は連携してプログラムを実施
- ・ 午前のパネル討論「STI人材育成プログラムによる15か年の取組の成果とこれから」で各拠点の人材育成活動・成果を紹介・本発表では説明省略
- ・ 各基盤的研究・人材育成拠点の概要・活動は、ポスター展示、配布の資料集参照

・研究活動

- ・ 基盤的研究・人材育成拠点(SciREXセンター含む)事業の研究活動
- ・ 基盤的研究・人材育成拠点が行う研究活動の総体として置かれる「中核的拠点機能」
 - ・ SciREX第1期の後半に事業全体を牽引、主導するための仕組みの必要性について議論
 - ・ 「中核的拠点機能」の中心的役割を担うSciREXセンター(2014年8月設置)
- ・ 3.で中核的拠点機能の研究活動の推移を概観
- ・ 午後のパネル討論「政策現場と研究をつなぐ」でSciREXの研究活動の成果と課題を議論予定

7

2-2.事業の概要：公募型研究開発

- ・ 政策課題の解決に貢献し得るような成果創出を目指した指標の開発等を公募型研究開発プロジェクトによって推進
- ・ JST-社会技術研究開発センター(RISTEX)により第1期から第3期にわたり実施
- ・ 第1期の実績として、採択数20件【G01～G20】(採択率約10%)、企画調査6件【H01～H06】
 - ・ 「企画調査」はプロジェクトとして実施するための更なる具体化が必要なものを採択して半年間のみ実施したもの
- ・ 第2期中の採択数は21件【I01～I21】
 - ・ 第1期ではプロジェクト期間内における政策への成果の実装が強く求められていたが、第2期では必ずしも期間内での政策への成果の実装を求めず、あくまでも「政策形成の実践に将来的につながりうる、新しい発想に基づく研究開発成果の創出を目指す」ことになった
 - ・ 第2期に、プロジェクト成果に関する広報・成果発信の取組(「POLCY DOOR」)を開始
- ・ 第3期の実績として延べ採択数11件【J01～J11】(うち共進化枠4件)。現在、研究進行中
- ・ 午後の報告「研究開発と政策実装-公募型研究開発プログラムにおける「政策のための科学」の実践-」において、活動・成果を報告・本発表では説明省略
- ・ ポスター展示、配布の資料集参照

8

2-3.事業の概要：データ・情報基盤の整備

- エビデンスに基づく科学技術・イノベーション政策の推進、及び SciREX事業を中心とした調査分析や研究の基礎となるデータ・情報を体系的に活用する基盤の構築
- 科学技術・学術政策研究所(NISTEP)により第1期から第3期にわたり実施
- 午後の報告「EBPMを支えるデータ・情報基盤の構築：NISTEPの15年の歩み」において、活動・成果を報告予定・・本発表では説明省略
- ポスター展示、配布の資料集参照

9

3-1.SciREX研究活動の変遷(1)

- 以降では**公募型研究開発プログラムを除くSciREX研究活動の変遷**に触れる
- 基盤的研究・人材育成拠点における研究
 - 第1期～第3期を通じて、基盤的研究・人材育成拠点(SciREXセンター含む)において研究が行われてきている
- 政策課題対応型調査研究
 - SciREX事業第1期において、NISTEPでは政策課題対応型調査研究の対象領域を政府の研究開発投資の経済的・社会的波及効果に関する総合的な調査研究とし、以下の調査研究が行われた
 - ①マクロ視点からのR&D投資の効果分析
 - ②ミクロ視点からの大学と企業との間の知識移動に着目した分析
 - ③ミクロデータを活用したR&D投資の効果分析
 - なお、SciREX事業第2期から、NISTEPでは「政策のための科学」における基盤となるデータの蓄積やデータベースの構築を自身の調査分析と一体となって行うこととなりました。

10

3-2.SciREX研究活動の変遷(2)

- 「政策形成実践プログラム」(2013年度)
 - SciREXを構成する当初の4つのプログラム(基盤的研究・人材育成拠点の形成、公募型研究開発プログラム、政策課題対応型調査研究、データ・情報基盤の構築)の取組を一体的に牽引・主導するとともに、得られた成果を政策形成の実践に生かすことを目指し、文部科学省の委託による「政策形成実践プログラム」が2013年度に行われ、政策研究大学院大学が受託
 - 2014年度以降の中核的拠点機能の拡充につながる
- SciREXセンター・3領域研究(2014～2018年度)
 - SciREXセンターでは、基本方針で示された研究領域を踏まえ、3つの領域(政策デザイン領域、政策分析・影響評価領域、政策形成プロセス実践領域)で研究を実施
 - 外務大臣科学技術顧問の設置はその成果
 - それぞれの研究領域はプログラムマネージャーが広い権限を持ち、複数のプロジェクトが関連する形となっていた

11

3-3.SciREX研究活動の変遷(3)

- 【重点課題に基づく研究プロジェクト(2016～18年度)】
 - 第1期の中間評価において、各拠点や関係機関等の更なる連携強化や生きた政策課題に積極的に取り組む必要性などが指摘
 - これを受け、各拠点・関係機関が共通の課題として取り組む「重点課題」が設定
 - この重点課題は、第5期基本計画の実現に向けた重要なテーマについて、行政官と研究者が議論し、研究者側のシーズも重視しながら2016年3月に決定。しかし、重点課題の提示だけでは実際の政策課題解決の方向性を定めにくいと、実際に取り組むべき分野についても重点課題ごとに「重点取組分野」として提示(なお、3領域研究の研究も重点課題に基づくプロジェクトとして行われた)
 - 10件のプロジェクトを実施(資料集参照)
- 「各研究プロジェクトと行政官が、継続的に対話・協働し、研究と具体的な政策への反映を共に模索し続ける関係性構築が難しかった」(基本方針(改訂版)3(1))との認識から、共進化実現プロジェクト(2019年度～)へ

12

3-4.SciREX研究活動の変遷(4)

- 【共進化実現プロジェクト(2019年度～2020年度)】
 - (後に「共進化実現プログラム・第1フェーズ」と呼ばれる)
 - 「重点課題に基づく研究プロジェクト」との位置づけは継続
 - 従来の研究プロジェクトは政策課題の粒度が大きすぎ、行政がその成果を受けきれなかったとの反省を踏まえ、文部科学省の課室単位で対応できる課題を対象とした
 - 課室から提起された具体的な政策ニーズに対して拠点大学・SciREXセンターの研究者で関心のある者を募り、両者間で十分な議論のもと検討し、新たな重点課題とした
 - この過程では、政策への具体的な貢献を実現させるためのデザイン等についても重視することとした
 - 研究プロジェクトの作り込み・開始の時点で、行政側も研究を共に進める者として位置付け、2年間のプロジェクト実施期間中、担当課として組織の業務として取り組むこととし、あわせて、研究プロジェクト開始時点の担当者が継続して研究プロジェクトに関わることができるよう、SciREXセンターの政策リエゾンの枠組みの拡充も進めた
 - 9件のプロジェクトを実施(資料集参照)
 - アドバイザリー委員の協力を得たフォローアップを実施(第3フェーズまで継続)

13

3-5.SciREX研究活動の変遷(5)

- 【共進化実現プログラム・第2フェーズ(2021年度～22年度)】
- これまでの経験を踏まえ第2フェーズでは次の運営の改善を加える
 - 従来の政策ニーズは文部科学省のいわゆる研究3局(科学技術・学術政策局、研究振興局、研究開発局)に限られたものであったがこれを教育部局等に拡大
 - 対応する研究者については、拠点大学に加え、NISTEP、CRDS、RISTEX(公募プログラムに参加した研究者を含む)に拡大
 - SciREXセンターがプログラムの運営に協力
 - ステージゲート方式(共進化実現ステージ・2年間/準備ステージ・1年間)
 - 準備ステージ5件含め14件採択/準備ステージから2件が実現ステージに移行し、共進化実現ステージ11件実施

14

3-6.SciREX研究活動の変遷(6)

- 【共進化実現プログラム・第3フェーズ(2023年度～25年度)】
 - これまでの運営方式を継承
 - 事業自体の終了が2025年度になるため、ステージゲートは設けないで2025年度まで継続して実施
 - 課室横断的な政策課題や、担当課室が明確ではないものの、政策や社会、技術等の動向から今後、政策的な対応が求められることが想定される課題など、より広く柔軟に、大きな政策課題に貢献しうる研究課題を募集し、計7件(資料集参照)のプロジェクトを採択
- 2023年10月に研究開始

15

4-1.拠点・機関間連携の活動:サマーキャンプ(1)

- ○サマーキャンプの実施
- 拠点間共同プログラムとして各拠点の協力を得て、拠点の履修学生等が参加し複数のグループに分かれてグループワークを行い政策提言を作成する「サマーキャンプ」を毎年度実施。
- このキャンプは、参加者の満足度も高く、拠点間のネットワーク形成でも大きな意義を持っている



資料: SciREXQuarterly Vol.26/2024年度のサマーキャンプの様子(以下同)

16

4-2.拠点・機関間連携の活動:サマーキャンプ(2)

年度	幹事校	テーマ	開催場所
2012	九州大学		九州大学
2013	政策研究大学院大学	大型研究プロジェクト	茨城県つくば市
2014	大阪大学・京都大学	人口減少社会2045	兵庫県淡路市
2015	東京大学	科学技術イノベーションと産業化:政策・規制・安全保障の視点から	愛知県犬山市
2016	一橋大学	科学技術イノベーション政策と震災復興	宮城県松島町
2017	政策研究大学院大学	2030年のシナリオ～異分野連携の科学技術イノベーション政策	政策研究大学院大学
2018	政策研究大学院大学	2030年の社会と科学技術イノベーション	政策研究大学院大学
2019	政策研究大学院大学	課題解決のための科学技術イノベーション政策	政策研究大学院大学
2020	政策研究大学院大学、 大阪大学・京都大学	※共通テーマの設定はなし	オンライン
2021	政策研究大学院大学、 一橋大学	Afterコロナ時代のイノベーションシステム	オンライン
2022	政策研究大学院大学、 九州大学	多様な価値観と向き合う政策立案	政策研究大学院大学
2023	政策研究大学院大学、 東京大学	Addressing Real-World Challenges ～不確実性な未来を生きぬくための科学技術イノベーション政策～	政策研究大学院大学
2024	政策研究大学院大学	私たちはどう生きるか？ ー科学技術イノベーション×政策×アントレプレナーシップー	政策研究大学院大学
2025	政策研究大学院大学	分断してゆく時代に求められる未来との対話	政策研究大学院大学

17

4-3.拠点・機関間連携の活動:サマーキャンプ(3)

- ・ 初日(午後:2024年度の例)
 - ・ オリエンテーション
 - ・ グループワーク
 - ・ 懇親会



12グループに分かれて行われたグループワーク

資料: SciREXQuarterly Vol.26



初日に開催されたオリエンテーション



グループワーク後、行われた懇親会

18

4-4.拠点・機関間連携の活動： サマーキャンプ(4)

- 2日目(2024年度)
 - ・グループワーク
 - ・中間発表会
 - ・相談会



粘り強く議論を続けていたグループ



中間発表に写を撮る参加者たち



各組織がブースを設け、学生と懇談する相談会

資料: SciREXQuarterly Vol.26

19

4-5.拠点・機関間連携の活動： サマーキャンプ(5)

- 3日目(2024年度)
 - ・最終発表会
 - ・講評・フィードバック



各グループの最終発表を聞く審査員の方々

資料: SciREXQuarterly Vol.26

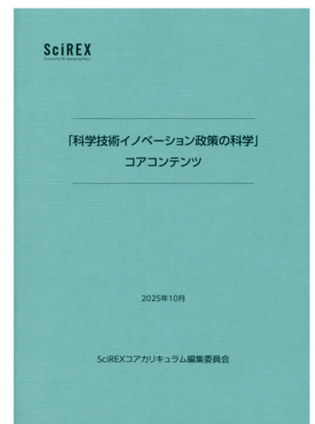


発表の一コマ。話の流れや分かりやすさも評価のポイント

20

4-6. 拠点・機関間連携の活動： コアコンテンツの作成(1)

- 「科学技術イノベーション政策の科学」を理解する上で基本的に必要な知識を、「コアコンテンツ」として提供
- 第一期の中間評価の結果を踏まえ、2016年から検討開始。基盤的研究・人材育成拠点が提供する教育プログラムのシラバスやリーディング・リスト等を共有するとともに、この領域の論点（サイエンス・クエスト）を出し合うワークショップを拠点大学・関係機関・文部科学省が協力して開催
- 教材の作成のみならず、将来的にはコアとなる教育カリキュラムの作成を目指して、同年に拠点大学及び関係機関からなる「**コアカリキュラム編集委員会**」を立ち上げ、サイエンス・クエストをベースとして学ぶべきコアとなる要素（**コアコンテンツ**）を同定し、目次構成を作成、拠点大学・関係機関の関係者を主な執筆陣として原稿を作成。
- 学生や研究者のみならず政策担当者等も対象読者としたことから、各コンテンツのレビューを関連分野の研究者1名と政策担当者・実務者1名の計2名で実施し、内容に関する質の担保に加え、想定される読者からの視点を反映させることとした。
- 2018年にコミュニティ内での公開を行い、2019年4月にはウェブサイトで一般公開を開始、その後一部原稿を追加（最終追加は2024年2月）



印刷物としても作成。
PDFでダウンロード可

21

4-7. 拠点・機関間連携の活動： コアコンテンツの作成(2)

- SciREXセンターが編集委員会の事務局を務め、コアコンテンツをその運営するSciREXポータルで提供し活用を促進。最近は印刷物も作成
- <https://scirex-core.grips.ac.jp/>
- コアコンテンツは「政策のための科学」が対象とする学際的研究領域の外縁、構造等を明らかにするものとなっている

「科学技術イノベーション政策の科学」コアコンテンツとは

「科学技術イノベーション政策の科学」とは、科学技術イノベーション政策をよりエビデンスに基づくものにするために、政策と研究が相互作用しながら発展する、新たな学問領域です。 [🔗](#)

このウェブサイトでは、「科学技術イノベーション政策の科学」を理解する上で基本的に必要な知識を、コアコンテンツとして提供しています。 [🔗](#)

「科学技術イノベーション政策の科学」を新たに学び始める学生の方、科学技術イノベーション政策に携わる政策担当者や実務家の方に、是非読み頂きたいと思います。

コンテンツの構成（詳細 [🔗](#)）

0. イントロダクション [🔗](#)
1. 科学技術イノベーションのダイナミクス [🔗](#)
2. 科学技術イノベーションのガバナンス及び政策形成プロセス [🔗](#)
3. 科学技術イノベーションと社会 [🔗](#)
4. 科学技術イノベーション政策の社会経済的インパクト評価 [🔗](#)
5. 科学技術イノベーション政策の歴史・海外情報 [🔗](#)

22

4-8. 拠点・機関間連携の活動：行政官研修の実施

科学技術イノベーション研修（2024）について

- ・ 科学技術・イノベーション（STI）政策の企画立案・遂行能力の向上を図る研修であり、2017年度に開始。
- ・ STI行政を担当もしくは担当することが見込まれる係長・課長補佐が主な対象。修了者には認定証が授与。
- ・ 文部科学省における唯一の人事課認定研修であり、人事記録に受講履歴が記載される※。 ※人事記録の記載事項等に関する内閣官房令第1条第4項第5号

【座学】

コアコンテンツをベースとし、STI政策形成において必要な基礎知識や政策動向を学習。

	第1日 12月16日（月） 15階第1会議室	第2日 12月17日（火） 15階第1会議室	第3日 12月20日（金） 16階第1会議室
第1講義	13:00～14:00 [1H] イントロダクション：科学技術・イノベーション政策の原点 文科省 徳田 *アイスブレイキング	13:00～14:30 [1.5H] エビデンスに基づく科学政策・イノベーション政策 東京大学 藤山	13:00～14:30 [1.5H] 科学技術・イノベーションと社会、カ/サ/ンス① 大阪大学 宇田
第2講義	14:15～15:45 [1.5H] エビデンスに基づく科学政策・イノベーション政策 GRIPS 林	14:45～16:15 [1.5H] 科学技術・イノベーションと社会、カ/サ/ンス② 京都大学 田村	14:45～16:15 [1.5H] 科学技術・イノベーションのダイナミクス② 筑波大学 安田
第3講義	16:00～18:00 [2.0H] 科学技術・イノベーション政策の形成プロセスと政策の実施 文科省 徳田 経産省 浜田	16:30～18:00 [1.5H] エビデンスに基づく科学政策・イノベーション政策 NISTEP 伊藤	16:30～18:00 [1.5H] 科学技術・イノベーションのダイナミクス③ 一橋大学 江藤

▼講義を受講する様子（写真は2023年度）

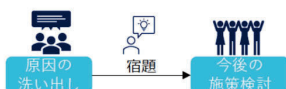


【交流会】

実践でのチーム型活動を活性化させ、年次や組織の垣根を超えてチームワークを形成することを目的として交流会を実施。議論の活発化に貢献。

【実践】

政策課題や必要な情報ニーズ（政策ニーズ）を整理し、一連の政策プロセスに資するエビデンスを創出することが望ましい研究関心領域「Area of Research Interest (ARI)」の抽出を体験。



▼ディスカッションの様子



✓ 2024年度の参加者

省内職員：13名（うち修了者12名）
※ほか、研究開発法人からの参加者も受け入れ



✓ 研修日程（延べ23時間程度）

座学（3日間）、演習（3日間）など

✓ 満足度調査から得られた声の例

- ・ 「policyとoutcomeの間にあるメカニズムについての仮説・検証をはじめとする政策設計の精緻化の必要性を改めて認識し、行政官として身につけたい。」
- ・ 「議論の場では皆対等に意見を出し合い、互いに尊重し合える場であったことが嬉しかった。」

座学平均満足度 4.35/5.0
実習平均満足度 4.25/5.0

▼付箋で背景情報・意見などを整理



資料：文部科学省「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」事後評価委員会」（第1回-R7.10.22）、参考資料2より

11

4-9. 拠点・機関間連携の活動：ブラウンバッグセミナーの実施

SciREX
サイレックス事業

- ・ 行政官と研究者を中心とする議論の場として開催している文部科学省及びSciREX拠点関係者向けのセミナー（2020年度～）
- ・ SciREX事業及び事業関係者の文部科学省内への紹介・周知、行政官の政策ニーズの把握の場としています。

最近の開催実績

日付	テーマ	講師
2025年 11月11日	「我が国の宇宙活動の長期持続可能性を確保するための宇宙状況把握（SSA）に係る政策研究」	鈴木一人氏（東京大学公共政策大学院 教授）
2025年 1月20日	「STI 政策における行政の専門性と博士人材の活躍」	祐野 恵 氏（京都大学大学院医学研究科 特定講師）
2024年 11月7日	「アカデミアと行政官の「共進化」による政策課題の可視化と制度設計ーバイオエコノミーを目指したバイオものづくりの推進」	松尾 真紀子 氏（東京大学公共政策大学院 特任准教授）
2024年 8月22日	「人文学・社会科学の国際性」に関するモニタリング指標の開発／	軽部 大 氏（一橋大学 教授／イノベーション研究センター センター長）
2024年 5月23日	「研究設備・機器の共用による研究・イノベーションの促進に向けて」	隅藏 康一 氏（政策研究大学院大学 教授）
2024年 1月25日	「研究者のキャリアパス：安定性と流動性の両立を目指して」	安田 聡子 氏（九州大学大学院 経済学研究院 教授／九州大学 科学技術イノベーション政策教育研究センター 協力教員）
2023年 11月16日	「研究開発戦略策定に多様な専門知と社会知を取り入れる対話手法には何が必要か？」	平川 秀幸 氏（大阪大学COデザインセンター教授／公共圏における科学技術・教育研究拠点（STIPS）拠点長）

4-10. 拠点・機関間連携の活動： フォローアップ調査・学生ニーズ調査の実施

・フォローアップ調査

- SciREX事業関係のフォローアップ調査を2020年度及び2024年度に実施
- 調査対象者は(A)拠点においてSciREX教育プログラムを受けた修了生、(B)拠点、関係機関にて事業に参与した教職・研究職・専門職、(C)拠点、関係機関にて事業に参与した顧問等シニア、(D)文部科学省にて事業に参与した行政官
- キャリアパス調査および人材育成等の効果・影響、今後の事業改善に向けた意見等についてのアンケート調査を行う
- 調査結果はSciREX事業の成果と課題の把握、改善策の検討と評価の基礎資料となっている(SciREX Quarterly vol.28参照)。

・学生ニーズ調査

- 東大STIG拠点を幹事校とし、2012年度～2023年度まで毎年度実施(2020年度を除く)。
- SciREX事業関連の教育プログラムを受講している大学院生へのグループインタビューを通じて、受講動機、カリキュラムに対する満足度、課題などを調査
- 調査結果を大学ごとの個別報告書にまとめ、個別報告書を集約して全体報告書を作成
- 教育プログラムの改善に役立ってきた

25

4-11. 拠点・機関間連携の活動： 共進化方法論の調査研究

- 共進化を促す研究プログラムの運営やSTI政策を対象にEBPMに取り組む行政官及び研究者の活動の参考となる情報として提供することを目的として、共進化を目指す類似のアプローチ、他国の事例、共進化実現プログラムにおける取組事例等の調査研究(共進化方法論に関する調査研究)をSciREXセンターで実施(2021年度～: SciREX第3期)
 - 共進化実現プログラム(第1フェーズ)の追跡調査実施・分析等を行う
 - 英国のArea of Research Interest(ARI) のリスト化を参照しながら ARIのリスト化を試行し、行政官と研究者が政策研究課題を共創的に設定していく方法論の開発を行う
 - 吉澤剛・田原敬一郎・安藤二香 1「共進化方法論に関する調査研究について、及び「科学技術イノベーション政策における《適切な問い》の設定に向けて」『研究 技術 計画』2024 年 38 巻 4 号 p. 445-459。
 - 欧州等の海外における科学技術イノベーション政策の政策立案への大学等の研究成果の活用を促進する体制について調査
 - 地域中核・特色ある大学事業／パッケージに対する EBPM の実施を目指して、拠点及び拠点外の研究者を含む研究会を開催
 - 林隆之「大学改革政策の EBPM: 改革促進事業の効果をいかに分析するか」『研究 技術 計画』2024 年 38 巻 4 号 p. 420-432。
 - 科学技術イノベーション政策の研究と政策立案に必要なデータインフラに関する調査
- これらの調査研究の成果は運営委員会に適宜報告、研究・イノベーション学会、日本評価学会等で口頭発表するとともに、文部科学省とも勉強会を開催

26

5-1. ネットワーキング・アウトリーチ活動: SciREXセミナー

- SciREX 事業に関係するプロジェクトの成果や進捗報告を題材に一般公開のSciREX セミナーをこれまでに52回開催しています。
- 開催経過はSciREXポータルに情報の情報を掲載
- 広報誌SciREX Quarterlyに開催概要を掲載する場合も
 - 52回・・・vol.28 「共進化」の観点から振り返る研究者と行政官の協働
 - 50回・・・vol.27 革新と成長の源、日本における研究インフラのエコシステム形成
 - 49回・・・vol.25 科学技術外交の近年の動向と今後の課題
 - 47回・・・vol.24 日本の女子生徒の理系進学を阻む要因に迫る「行きたくても行けない」をなくすために必要な社会風土づくりとは
 - 45回・・・vol.21 博士人材が活躍し続けるために産官学と当事者に求められる姿勢の洗い出し
 - 44回・・・vol.20 生物学的な視座を加えた「総合知」で日本の子育て支援政策を再考する
 - 43回・・・vol.20「イノベーション・エコシステムの光と影」

The screenshot shows the SciREX portal website. At the top, there's a navigation bar with links like TOP, 政策のための科学とは?, ニュース・イベント, 研究, 人材育成, ネットワーク, 研究成果・資料. Below this, there's a section titled 'SciREXセミナー' (SciREX Seminar). It includes a sub-section 'SciREXセミナーとは?' (What is SciREX Seminar?) and 'SciREXセミナーの特徴' (Features of SciREX Seminar). There's also a table titled '開催実績' (Past Events) showing details of previous seminars.

回	開催日	タイトル	登壇者	開催場所
52	2025年7月3日	SciREX事業における共進化の現在と未来 ～政策と科学を考える～	総編集者 吉澤 剛 氏 ディスカッション 余昭 輝一 氏 ファシリテーター 安藤 二杏 氏	Zoomウェビナー

5-2. ネットワーキング・アウトリーチ活動: 広報誌SciREX Quarterly

- SciREXセンターのアウトリーチ活動の一環として、広報誌をこれまでに28号発行しています。
- SciREXポータルのSciREX Quarterlyページから各号をダウンロードできます。
- https://scirex.grips.ac.jp/newsletter/back_number/index.php

The cover of SciREX Quarterly vol.28 (2025) features the title 'SciREX Quarterly' and 'vol.28'. It highlights the 52nd SciREX Seminar report titled '「共進化」の観点から振り返る研究者と行政官の協働' (Collaboration between researchers and government officials from the perspective of co-evolution). It also mentions a follow-up survey for 2024.

The cover of SciREX Quarterly vol.25 (2024) features the title 'SciREX Quarterly' and 'vol.25'. It highlights the 49th SciREX Seminar titled '科学技術外交の近年の動向と今後の課題（科学技術・イノベーション政策のsecuritisationを踏まえて）' (Recent trends and future challenges of science and technology diplomacy (taking into account the securitisation of science and technology innovation policy)). It also mentions the results of the SciREX survey.

5-3. ネットワーキング・アウトリーチ活動： SciREXポータルサイトの運営・広報活動



- SciREX事業の成果のアウトリーチやネットワークの拡大のため、SciREX事業における各機関・拠点の取り組みや研究成果などについて、SciREXポータルWeb運営、セミナー、フォーラム、メールマガジンなどを通じて情報発信しています



29

5-4. ネットワーキング・アウトリーチ活動： オープンフォーラム



- オープンフォーラムの開催(2016年度から)
- SciREX 事業の取組、成果を発信するとともに、政策担当者、自然科学者、人文・社会科学者、大学・研究機関関係者、民間企業、メディア等と科学技術イノベーション政策の課題をオープンに議論し、課題に対する認識の向上、ニーズの把握等を目的
 - 2016年度「エビデンスから考える未来社会への戦略とシナリオ」
 - 2019年度「科学による政策課題解決への挑戦：たゆまぬ共創・協働」
 - 2020年度「科学技術イノベーション政策の新展開」(10回のウェビナー開催)
 - 2021年度「政策科学の新たな挑戦-第6期科学技術・イノベーション基本計画の実効性の確保に向けて-」(4回のウェビナー開催)
 - 2025年度「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』推進 (SciREX) 事業の挑戦と成果」

(以上、ご清聴ありがとうございました)

30